

「ミツマタ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ミツマタ」という木本(もくほん)植物がある。コウゾ(楮)と並んで、和紙の原料として有名な落葉低木だ。日本の紙幣にもミツマタが使われている。残念ながら国産のミツマタは生産量が激減し、中国などからの輸入品で製造されているようだ。



小石川植物園にもミツマタの標本木がある。梅の品種林の近くで目立たないが、種名板が添えてあるので、やっとミツマタだと気づいた。



小石川植物園は「公園」ではなく「研究施設」である。木本だけでなく草本(そうほん)植物にも種名板が添えてある。学名、和名(カタカナ表記)、科名、それに原産地が記入されている。非常に残念なのは「漢字表記」が欠けていることだ。動植物名(和名)はカタカナ表記が標準だが、それだけでは意味(由来)

がわからないものも多い。牧野の図鑑のように、漢字を併記してくれれば、それだけで由来のわかる和名もあるし、中国や台湾の来訪者にも理解できるだろう。

私はミツマタの感じ表記は、当然「三俣」または「三叉」だとばかり思っていた。しかし実は、「三桎」という見たこともない字を充てる。「桎」の字は、音読みでは「ア」、訓読みでは「また」と読む。原産国の中国では、一文字だけで「ミツマタ」の意味を持つ漢字のようである。



ミツマタは、名の通り枝が必ず「三叉」に分岐して枝先まで伸びている。太い幹から細い枝、それに花のつく枝の末端まで、何度も三叉に分岐しているのが面白い。よく名付けたものである。



ミツマタは「ジンチョウゲ科」の植物である。私が観察したのは2月中旬で、残念ながらまだ開花していなかった。しかしつぼみはジンチョウゲ(ジンチョウゲ)に似ている。今頃は、黄色く繊細な花を咲かせているだろう。もう一度見に行きたいと思っている。